

平成29年県民意識調査結果（テーマ別）

【概要版】

平成30年3月
宮 城 県

目 次

| | |
|--|---|
| I 調査結果 | 1 |
| 1 テーマ別項目 | 1 |
| (1) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に関するボランティア活動への関心について | 1 |
| (2) 地球温暖化対策について..... | 4 |
| (3) 食の安全安心について..... | 8 |

I 調査結果

1 テーマ別項目

テーマ別項目として、「東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に関するボランティア活動への関心について」、「地球温暖化対策について」及び「食の安全安心について」を調査したところ、次のような結果となりました。

(1) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に関するボランティア活動への関心について

調査結果の概要

【ボランティア活動への参加について】

- 県全体で、ボランティア活動への参加について、「参加したい (3.8%)」又は「できれば参加したい (11.0%)」と回答している割合の合計は、14.8%となっています。
- 一方で、「あまり参加したくない (17.7%)」又は「参加したくない (38.5%)」と回答している割合の合計は、56.2%となっています。

【ボランティアとして活動したい場所】

- 県全体で、ボランティア活動への参加について「参加したい」又は「できれば参加したい」の回答のうち、「活動したい場所」の割合が最も高かったのは、「どこでもよい (42.2%)」で、次いで「会場 (サッカースタジアム) 内 (40.7%)」、「仙台空港や仙台駅等の主要駅、観光地 (9.3%)」の順となっています。

【ボランティアとして活動したい取組】

- 県全体で、ボランティア活動への参加について「参加したい」又は「できれば参加したい」の回答のうち、「活動したい取組」が最も高かったのは、「観客、大会関係者の誘導・案内 (47.0%)」で、次いで「ボランティア運営サポート (31.5%)」、「選手、観客等へのごみの分別収集案内 (23.5%)」の順となっています。

【ボランティア活動への参加形態】

- 県全体で、ボランティア活動への参加について「参加したい」又は「できれば参加したい」の回答のうち、「参加したい形態」の割合が最も高かったのは、「個人で参加したい (42.9%)」で、次いで「友人・仲間同士で参加したい (25.4%)」、「家族で参加したい (24.6%)」の順となっています。

【ボランティア活動への不参加理由】

- 県全体で、ボランティア活動への参加について「あまり参加したくない」、「参加したくない」、「分からない」の回答のうち、「不参加の理由」が最も高かったのは、「活動に参加する時間がない (43.7%)」で、次いで「活動場所まで遠い (35.8%)」、「参加のために休暇取得等を行う必要がある (21.3%)」の順となっています。

図 1 ボランティア活動への参加について (県全体)

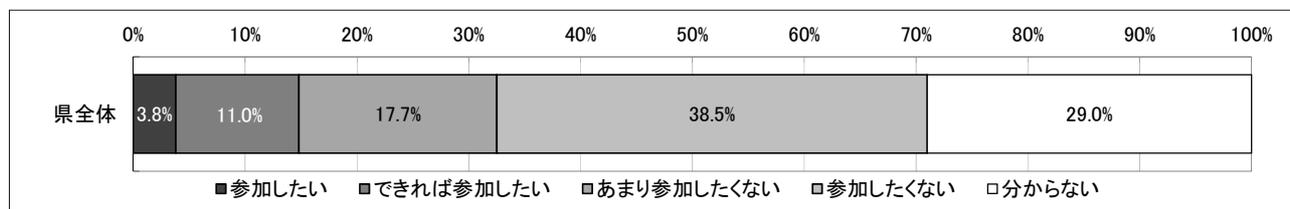


図 2 ボランティアとして活動したい場所（県全体・地域別）

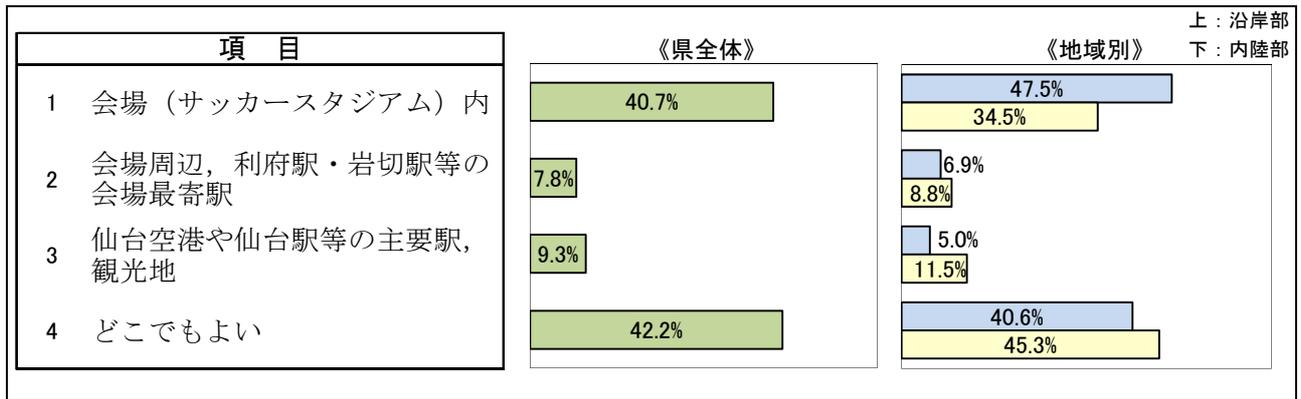


図 3 ボランティアとして活動したい取組（県全体・地域別）

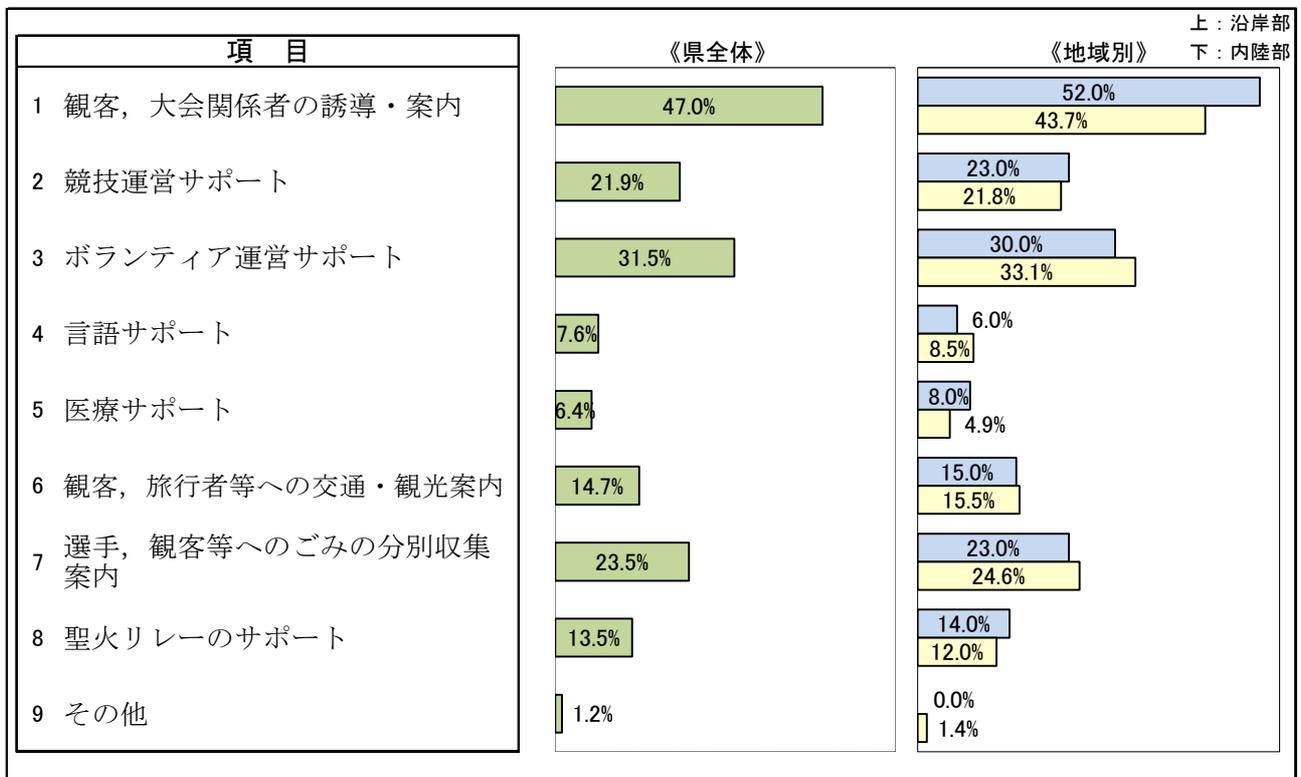


図 4 ボランティア活動への参加形態 (県全体・地域別)

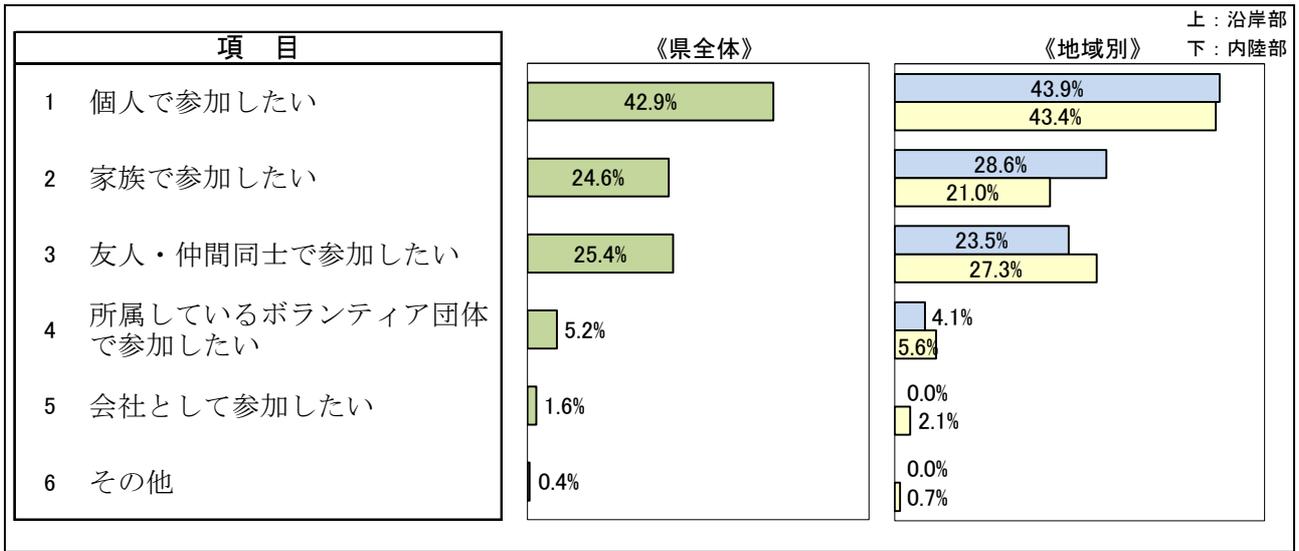
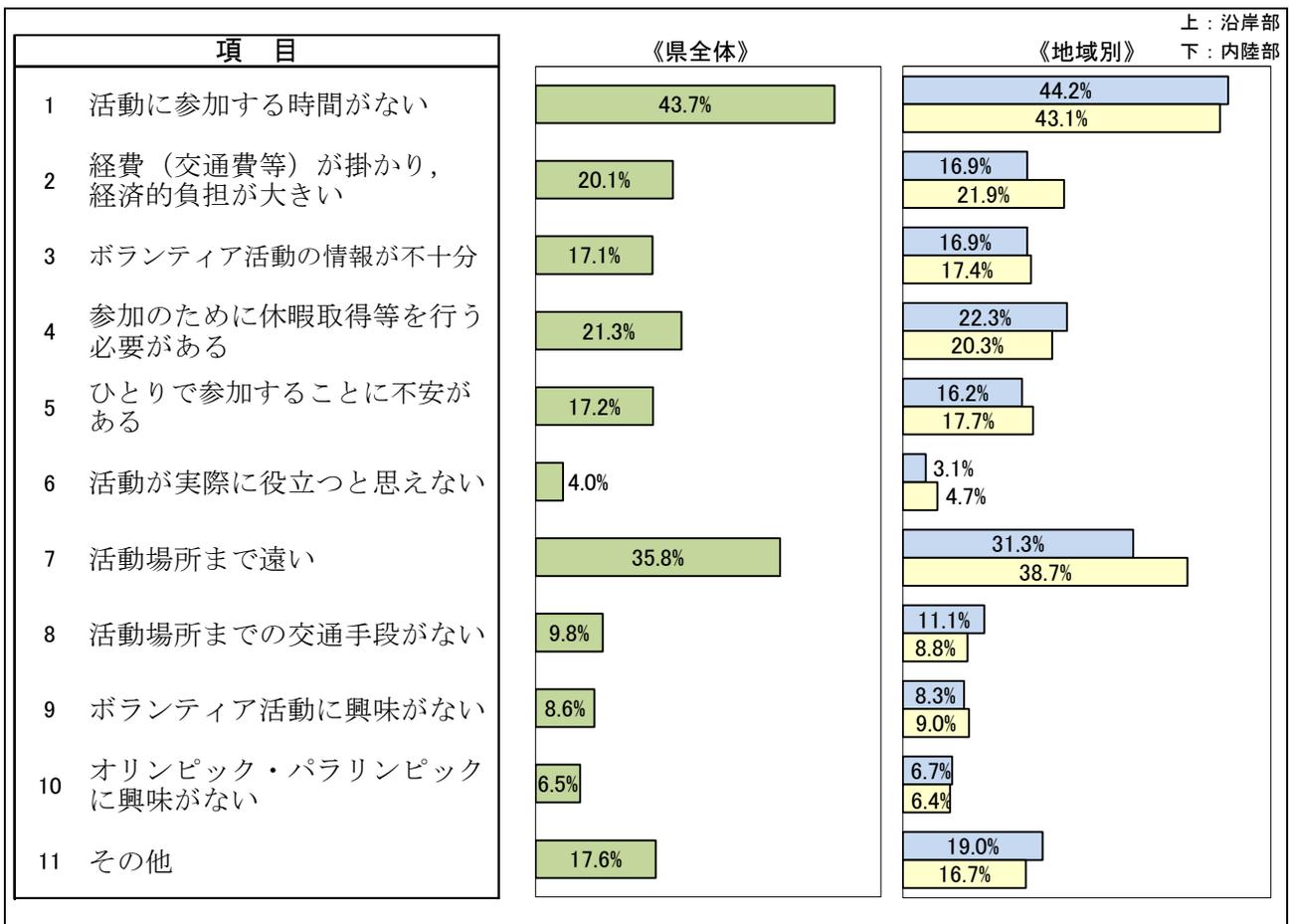


図 5 ボランティア活動への不参加理由 (県全体・地域別)



(2) 地球温暖化対策について

調査結果の概要

【省エネ意識について】

- 県全体で、省エネについて、「気をつけている (34.0%)」又は「どちらかといえば気をつけている (54.6%)」と回答している割合の合計は、88.6%となっています。
- 一方で、「どちらかといえば気をつけていない (7.7%)」又は「気をつけていない (3.7%)」と回答している割合の合計は、11.4%となっています。

【省エネに気をつけている理由】

- 県全体で、省エネについて「気をつけている」又は「どちらかといえば気をつけている」の回答のうち、「省エネに気をつけている理由」が最も高かったのは、「光熱費の削減になるから (83.0%)」で、次いで「地球温暖化防止につながるから (51.4%)」、「省エネは格好いいから (1.5%)」の順となっています。

【省エネに気をつけていない理由】

- 県全体で、省エネについて「どちらかといえば気をつけていない」又は「気をつけていない」の回答のうち、「省エネに気をつけていない理由」が最も高かったのは、「地球温暖化防止の効果が分からないから (48.4%)」で、次いで「面倒くさいから (40.4%)」、「その他 (17.6%)」の順となっています。

【省エネにつながる取組】

- 県全体で、「省エネにつながる取組」の実施率が最も高かったのは、「使わないときは部屋の電灯を消す (87.2%)」で、次いで「買い物にマイバッグを持参する (77.2%)」、「風呂の残り湯を洗濯や掃除に使う (47.6%)」の順となっています。

【省エネにつながる製品の使用】

- 県全体で、「省エネにつながる製品」の使用率が最も高かったのは、「LED照明 (76.2%)」で、次いで「省エネ家電 (46.9%)」、「節水型トイレ (29.9%)」の順となっています。

【住宅の暖房の主な熱源】

- 県全体で、「住宅の暖房の主な熱源」の割合が最も高かったのは、「灯油 (66.2%)」で、次いで「電気 (30.0%)」、「ガス (1.4%)」の順となっています。

【住宅の給湯の主な熱源】

- 県全体で、「住宅の給湯の主な熱源」の割合が最も高かったのは、「灯油 (37.7%)」で、次いで「ガス (31.1%)」、「電気 (25.5%)」の順となっています。

図 6 省エネ意識について (県全体)

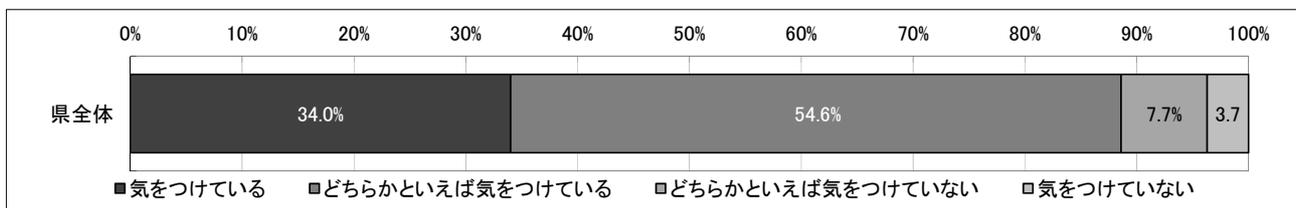


図 7 省エネに気をつけている理由 (県全体・地域別)

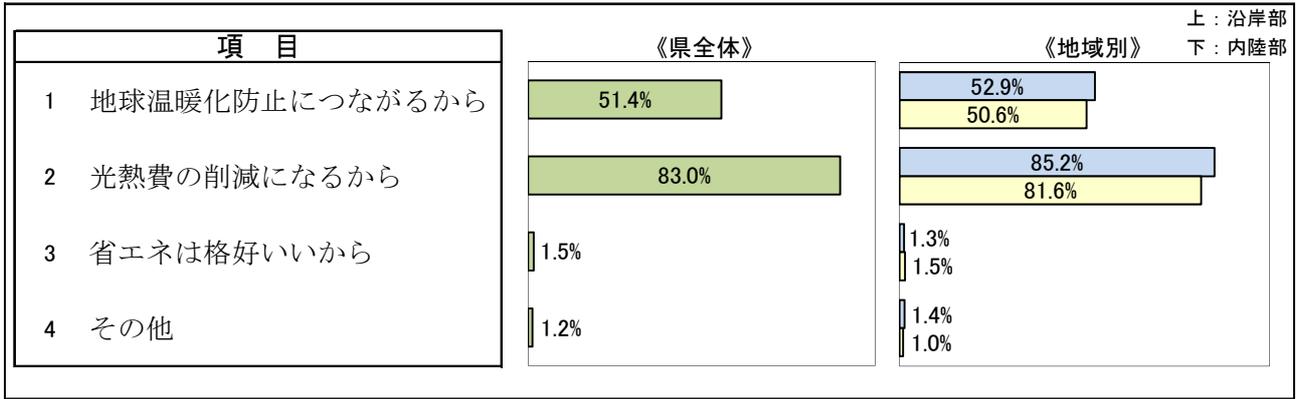


図 8 省エネに気をつけていない理由 (県全体・地域別)

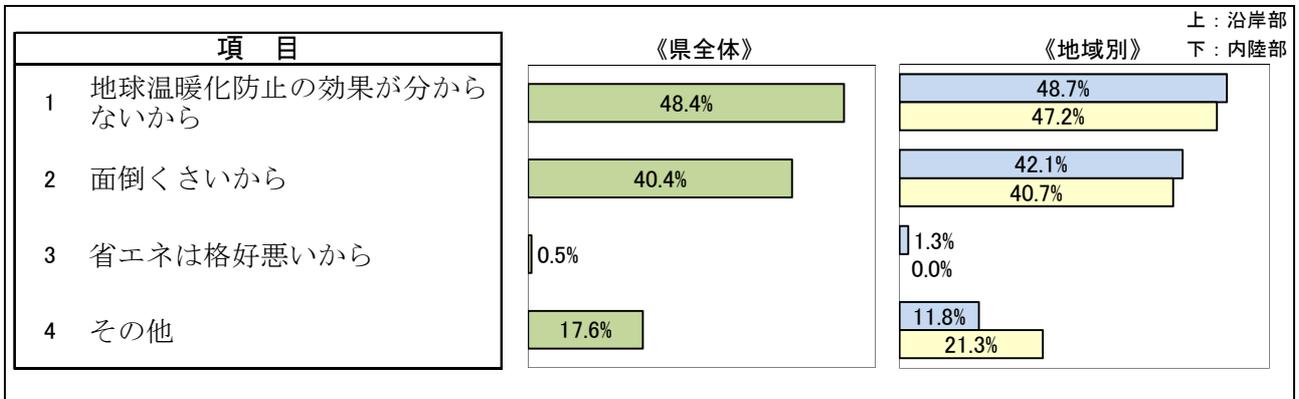


図 9 省エネにつながる取組 (県全体・地域別)

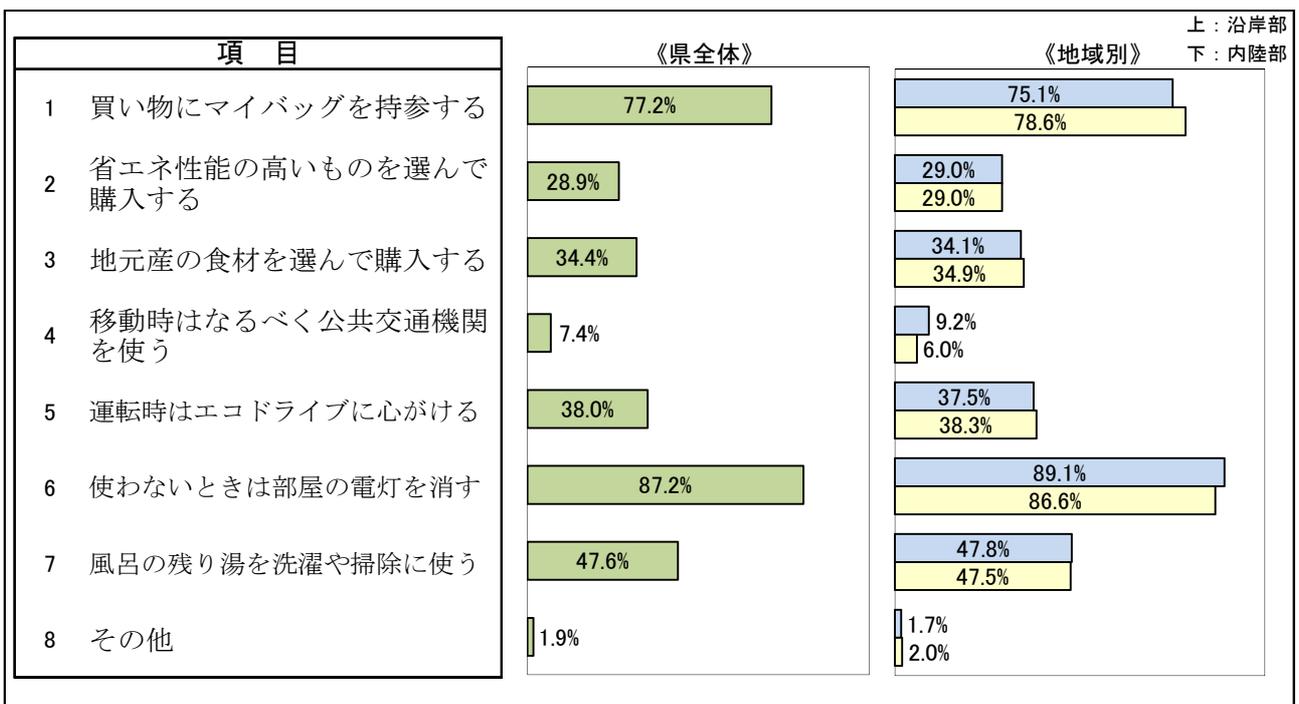


図 10 省エネにつながる製品の使用 (県全体・地域別)

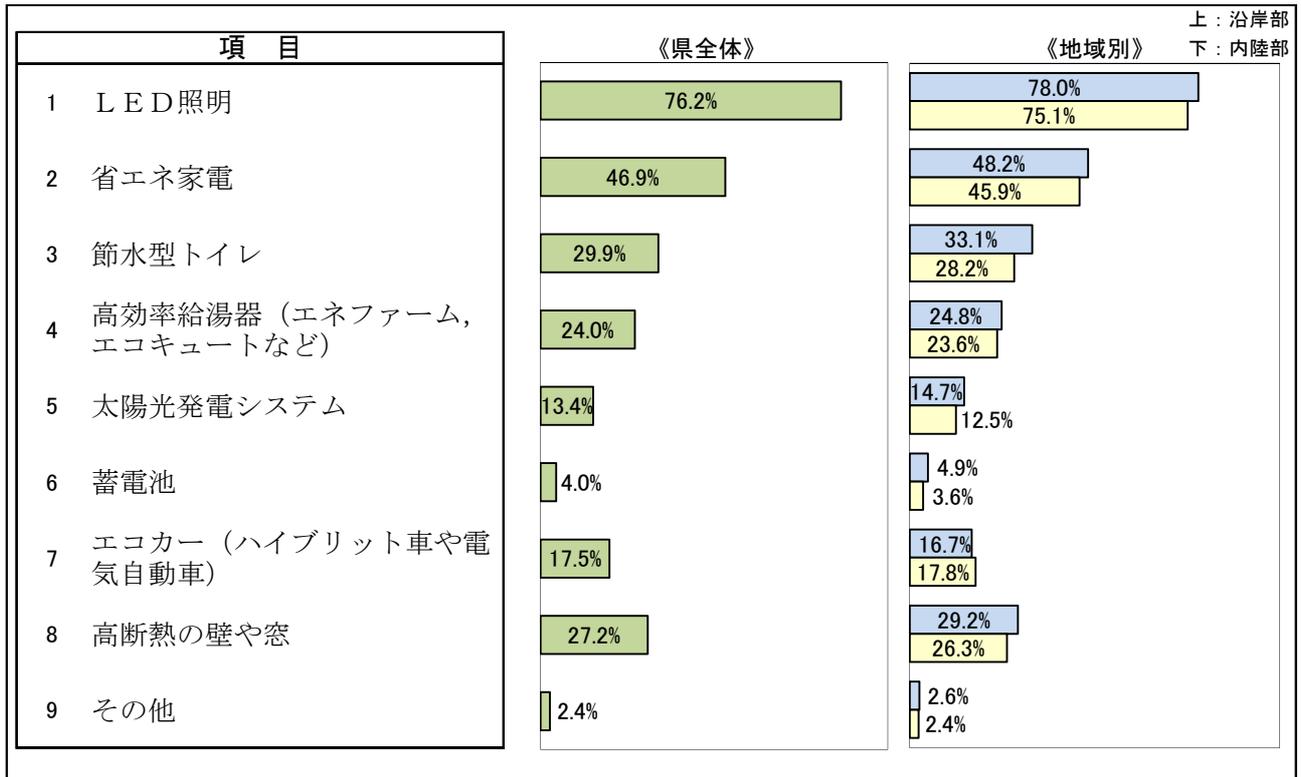


図 11 住宅の暖房の主な熱源 (県全体・地域別)

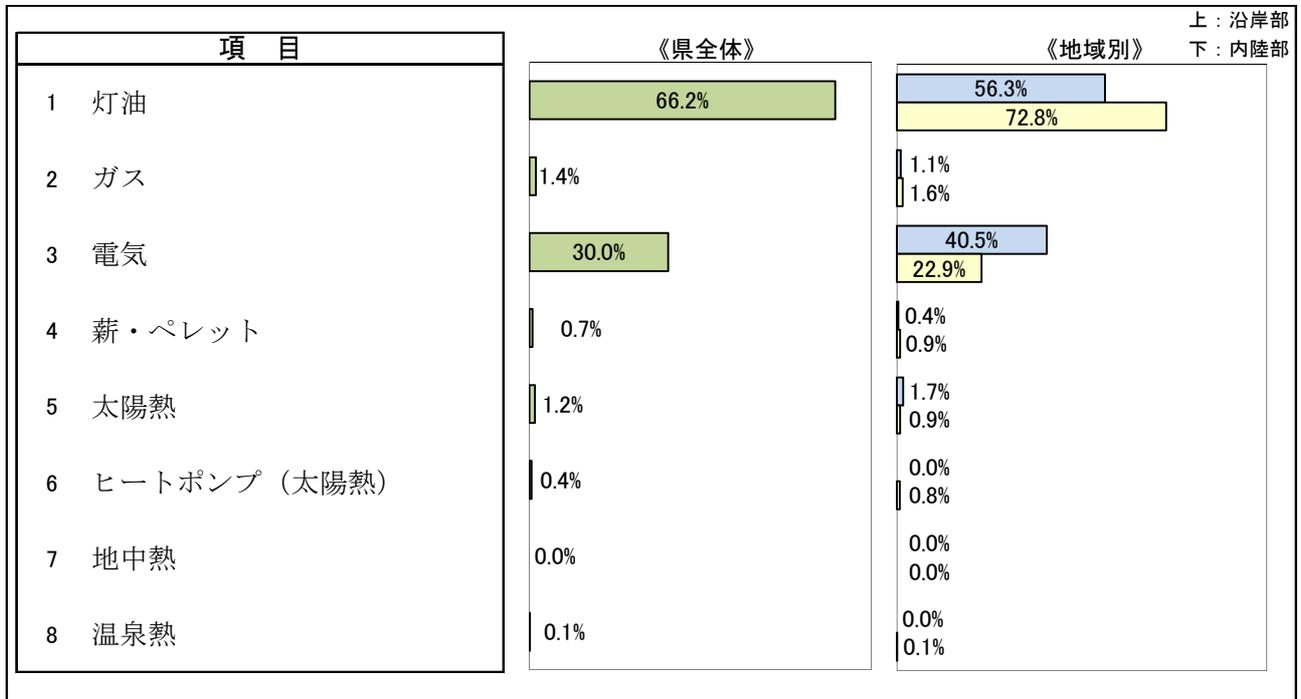
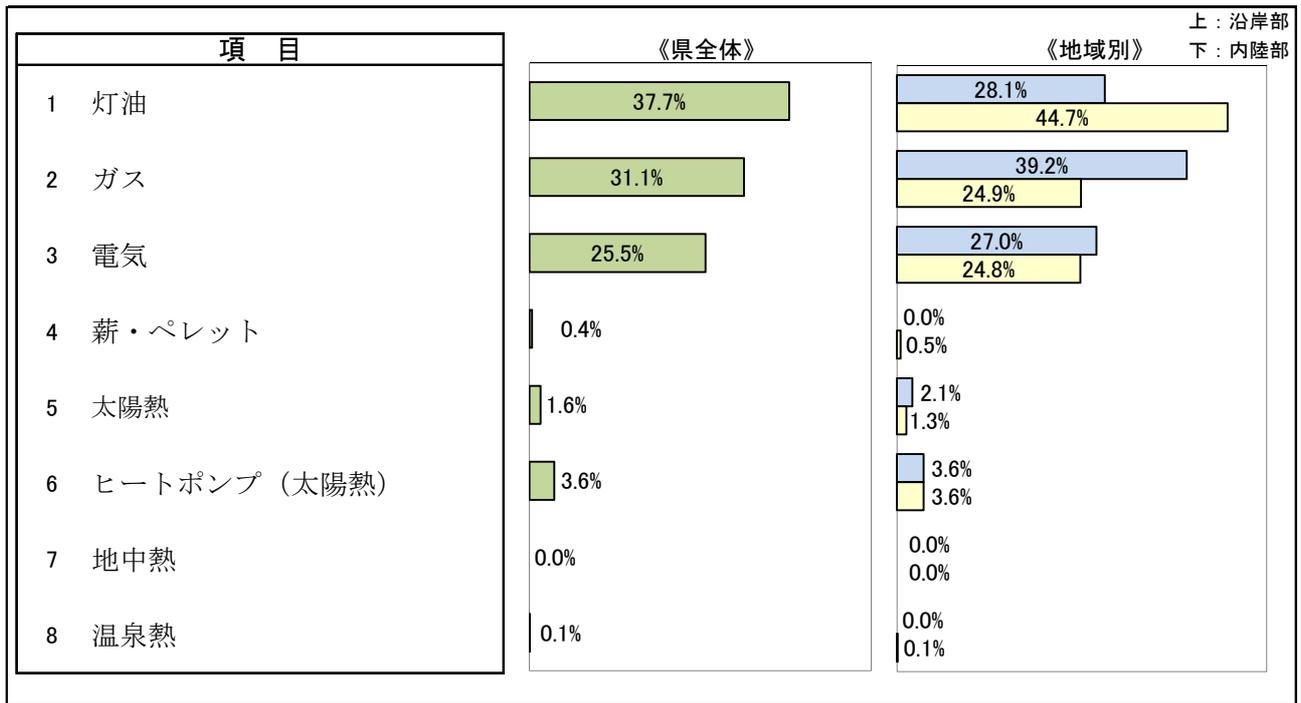


図 12 住宅の給湯の主な熱源 (県全体・地域別)



(3) 食の安全安心について

調査結果の概要

【食の安全安心全般への不安感について】

- 県全体で、食の安全安心全般への不安感について、「不安を感じる(13.5%)」又は「やや不安を感じる(37.7%)」と回答している割合の合計は、51.2%となっています。
- 一方で、「あまり不安を感じない(23.6%)」又は「全く不安を感じない(3.7%)」と回答している割合の合計は、27.3%となっています。

【食の安全性への不安感について】

- 食の安全性に関する各項目の不安感について、「強く感じている」を5点、「やや感じている」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり感じていない」を2点、「全く感じていない」を1点とし、平均値を比較しました。県全体で、平均値が最も高かったのは、「輸入食品の安全性(3.98)」で、次いで「食中毒について(3.95)」、「環境汚染物質について(3.89)」の順となっています。

【食の安全安心に関する情報提供について】

- 県全体で、食の安全安心に関する情報提供について、「十分である(4.5%)」又は「おおむね十分である(35.5%)」と回答している割合の合計は、40.0%となっています。
- 一方で、「あまり十分でない(11.8%)」又は「十分でない(5.8%)」と回答している割合の合計は、17.6%となっています。

図 1 3 食の安全安心全般への不安感について (県全体)

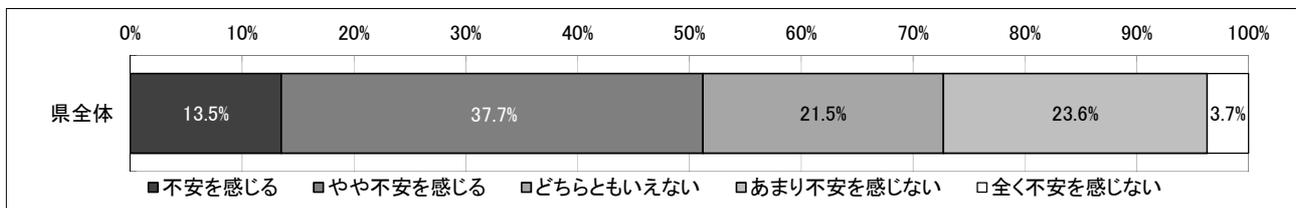


図 14 食の安全性への不安感について (県全体・地域別)

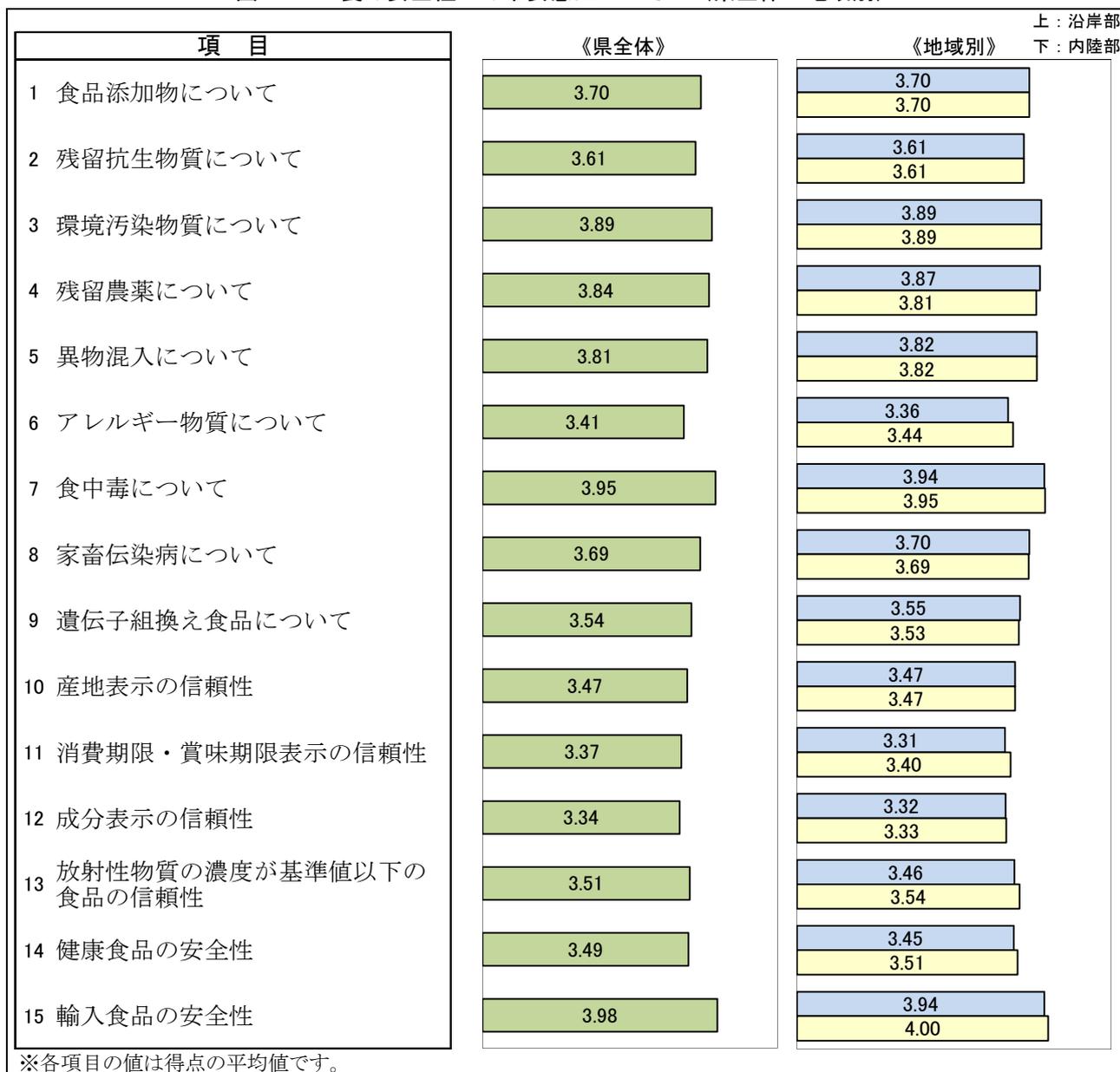
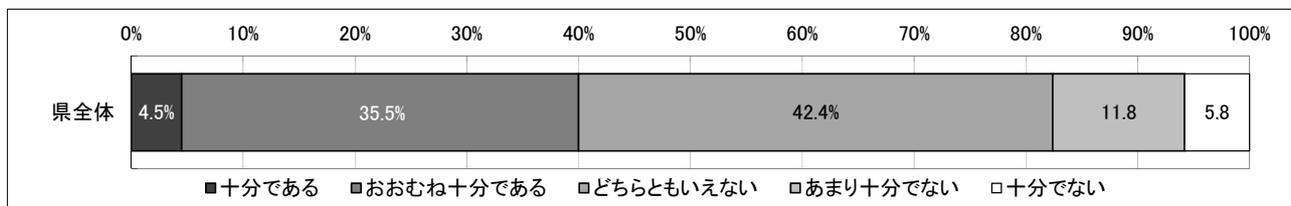


図 15 食の安全安心に関する情報提供について (県全体)





むすび丸

復興へ
頑張ろう！
みやぎ